第 1 2 回 J C N 現地会議 in 福島



平成27年12月4日(金)NPO法人ビーンズふくしま・みんなの家@ふくしま事業長 富田 愛

NPO法人ビーンズふくしまとは・・・?

不登校や引きこもり、貧困、震災による避難などの状況にいる子 ども若者が孤立せず自分らしく生きられる社会を創るため、フリー スクールや心の相談室、学習・就労支援、仲間づくり、親の会など の活動を続けています。

震災後は、仮設住宅で暮らす子ども達の支援や、原発事故の影響 で避難生活を続けている親子の支援などにも取り組んでいます。

2011年10月に厚生労働省の要請を受けて、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所内に「東日本大震災中央子ども支援センター」が設立され、ビーンズふくしまが福島現地窓口として、現地ニーズの把握や必要な支援に取り組んでいます。

さらに、次のステップとして2015年3月から「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」の助成を受けて、福島の親子・若者・地域の大人が集える多世代のコミュニティハウス「みんなの家@ふくしま」がスタートしています。

ビーンズふくしまが行っている被災子ども支援を、 震災時に福島にいた3名の母親に例えてみました。



・県外に避難している母親

Aさん・・・2011年6月に、山形へ母子避難。山形に 知り合いはだれもいない。福島のママ友を、「裏切って逃げ た」という思いが強い。→避難先での交流会や個別相談など

・避難先から戻ってきた母親



Bさん・・・2013年3月に、避難先の新潟から戻って きた。週末会いに来てくれる夫と別れるたびに号泣していた 子どもが、精神的に不安定になったのを見て帰還を決意。 福島での生活に不安でいっぱい。→ままカフェ

・避難しなかった母親



Cさん・・・自営業のため避難できなかったが、今でも 様々な報道を見るたびに、「避難したほうが良かったので は?」と不安になる。ママ友とは、放射能についての話は あまりしていない(出来ない)。

さらに、こんな二一ズも・・・

震災時は、独身だったから 避難しなかったけど、結婚してから急に不安に・・・。 福島で子育てして、大丈夫?

- 避難しなかった人は、どう 思っているのかな?
- 避難した人は、どう思っているのかな?

ままカフェのお蔭で前向きに なりました!!そろそろ、 違う仲間と話したいな!



皆がどう思っているのか 分からないから、不安だな。 放射能の事とか、話題に すっかり出ないよね・・・。

事業実施背景と見えてきた課題

避難先から戻ってきた親子支援として「ままカフェ」を開催していく中で、安心して悩みや不安の打ち明けられる場の常設化を求める声が多くなってきた。また、震災時は独身だったので避難しなかったものの、その後結婚し子どもを出産することで福島での子育てに不安を抱えている母親がままカフェに来始めたこともあり、「避難経験」に関わらずに不安や悩みを打ち明けられる居場所の必要性を感じるようになった。

「福島で子育てをしている全ての母親」を対象とした常設の居場所を開設することにした。

その居場所には、ビーンズの核となる子ども・若者達も集える場所、更に、地域の大人たちも積極的に関わって欲しいという思いから、「**多世代のコミュニティハウス**」として実施する。

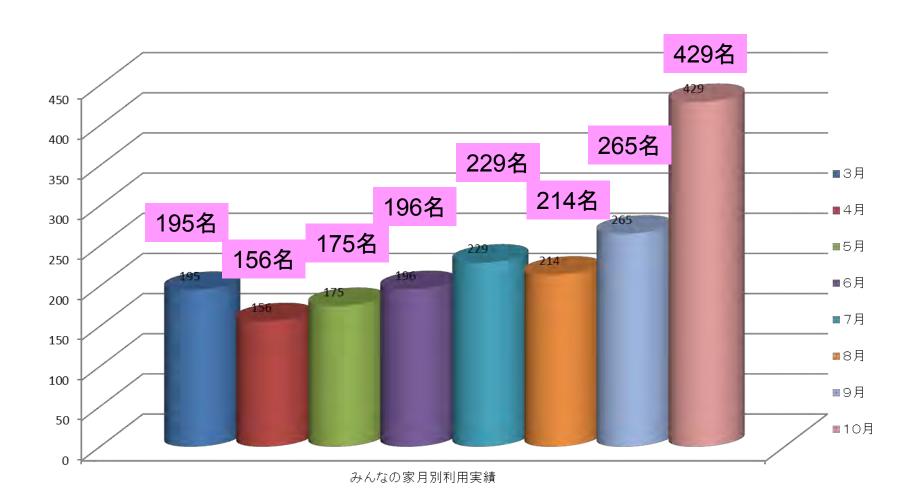
震災から4年が経過した福島で、親子、家族、地域など、バラバラになりかけたそれらの絆をもう一度紡ぎなおす場所になれたらという思いを抱いて実施している。

みんなの家@ふくしまスタート!

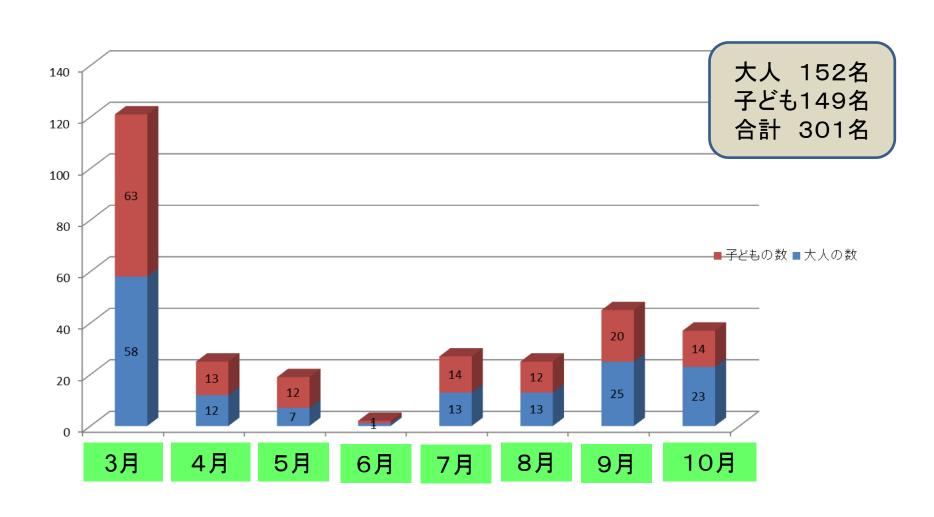
福島の全ての親子・若者・地域の大人も含めた多世代の居場所として、2015年3月19日にオープンした。

福島の親子も 若者も 地域の大人たちも そして、地域の大人たちも みんなが集い 笑いあい 認め合う みんなが安心して過ごせる場所 みんなのための みんなの家です

みんなの家月別利用実績の推移

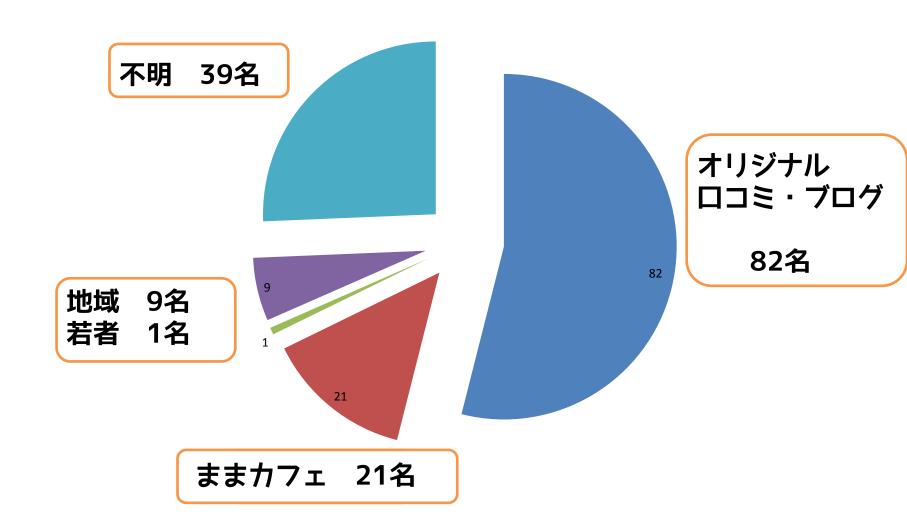


みんなの家 利用登録者数の推移



利用登録者はどこから・・・?

みんなの家利用登録経路



















NHK「ふくしまスペシャル」の収録から



福島に戻って浦島太郎 みたいだったよ。 私だけが不安なのか なって、思ってた。 ~避難ママ~

子どもの声が聞こえない 公園を見ることが、辛かっ た。自分達もこれからどう なるのかな?って不安 だったよ。

~若者~



避難した方が良かったん じゃないかな?子どもを守 れなかったのかな?って、 負い目を感じていたよ。

~避難していないママ~

それぞれの選択・それぞれの背景・それぞれの想いを、 今こそ話そう!認め合おう!! そして、支え合おう!!! と、実感出来た日。

みんなの家サポーター 『ぽかぽかFriends』

- ①利用者の中から、みんなの家サポーターを募集
 - →「あなたの力を活かしてみませんか?」
- ②グランドオープンの準備を手伝ってもらった
 - →自分の得意分野を活かして、オープンの準備を手伝ってもらった。 みんなの家の装飾、看板作り、家具の組み立て、お掃除等々・・・ 「みんなの家」への親近感、愛着が増した!!
- ③サポーター会議で、「みんなで出来ること」「わたしが 出来ること」を考えてもらった
 - →活動をより能動的にするためには、お金が必要だ!!
 サポーターを独立した団体として、代表、副代表を決め、助成金を獲得!
 現在は、みんなの家にて毎月2回「ぽかぽかFriends企画」を実施。
 スタッフは、書類作成の手伝いや活動の相談に乗るなどの後方支援に回る
 ことが大切☆

サポーターのサポーターへ・・・!!

今年のぱぱカフェは・・・

「家族が避難している」「家族が避難先から戻ってきた」パパ達を中心としながら、「福島のパパ」を対象としてみてはどうか?

→パパ達は、ママ達のようなカテゴリー分けではなく「父親」と言うカテゴリーのみで良いのだと気づいた。

「F-ぱぱプロジェクト」始動!!

昨年度からの参加者のパパ3名と実行委員会を発足し活動について協議を重ね、「Fーぱぱプロジェクト」を結成。助成金を獲得し、より能動的な活動へ・・!

F-ぱぱ☆プロジェクト

福島のパパで月に一回集まりませんか?

お仕事帰りの、毎月第4金曜日。福島での生活について 自分自身のことや、父親としての思いなど、いろいろな事を お酒を飲みながら男同士で話しませんか?

- ご家族が避難しているパパ
- ご家族が避難先から戻ってきたパパ
- ◆ 福島のパパや福島のパパを応援したいパパなど、ただい主参加メンバー募集中です!!

F-ぱぱメンパーと一緒に、福島でパパを楽しもう!

【F-ぱぱカフェ 日程】

- □ 9月25日(金) □11月20日(金) 19時~21時まで
- 口 会場 ダイニングラウンジ イヴのもり

福島市栄町6-4 南條ビル2F TEL 024-523-5055

口10月17日(土)

※この日は、会場・時間共に変わります。詳細は、下記をご覧ください。

【F-ばば芋煮祭り】

- □10月17日(土) 10時~14時まで(ばばカフェは15時~)
- 口場所:みんなの家命ふくしま

福島市等谷字清水14-12 TEL 024-572-4690 ※ばばカフェ以外にも、アウトドア企画や父子での楽しい

※ははカフェ以外にも、アワトトア企画やメナでの乗しい あそびやパパ向けの勉強会なども、ドンドン!企画してい

きます!」どうぞ、ご解特ください!!

NDO LE

F-ぱぱ芋煮&BBQ祭り

みんなの歌のふくしまにて、パパと子ども速で作る芋敷と 88Q祭りをやりますよ!!ただいま、一緒に準備や当日の 手伝いをしてくれるパパを募集中です!

芋煮&BBQ祭りの後は、ばばカフェ(パン(の飲み会)

主開催し生す!!

【F-ばば芋煮祭り】

□10月17日(土) 10時~14時まで ※ 15時~ぱぱカフェです

参加費:大人ひとり 500円 子ども:無料

※定員30組(定員になり次等締め切ります)

内容:◆芋煮&BBQをパパと子どもで作ろう!

◆火おこし体験&薪わり体験もあるよ!

場所:みんなの家のふくしま

※その間、ママ連には2階でお楽しみ企画~☆

★ハンドマッサージ (500円)
★ネイル (1爪 300円)
などなど・・・他にもまだまだ、企画中です!

ままトーク実施

~震災後の福島での生活について話そう!!~

◆第1回 参加者4名(内訳:避難経験あり3名、避難経験なし1名)

グループトークテーマ

- 食べ物(水含む)どこまで気をつかいますか?
- 外あそびはどうしている?
- 連休など保養を兼ねて県外に出かけている?
- 子どもにはこの事をどう伝えている?
- みんなは、こういう話を話せているの?

◆第2回 参加者7名(内訳:避難経験あり2名、避難経験なし2名、震災後に出産2名、地域の大人1名)

グループトークテーマ

- ・放射能について
- •友達が食材について、どれくらい気にしているのか分からないので、あそびに来た時に出すお菓子を悩む。
- ・仲良しの友達の中にも違いがある。
- 話す内容がグループによって変わる

ままトークを実施してみての所感

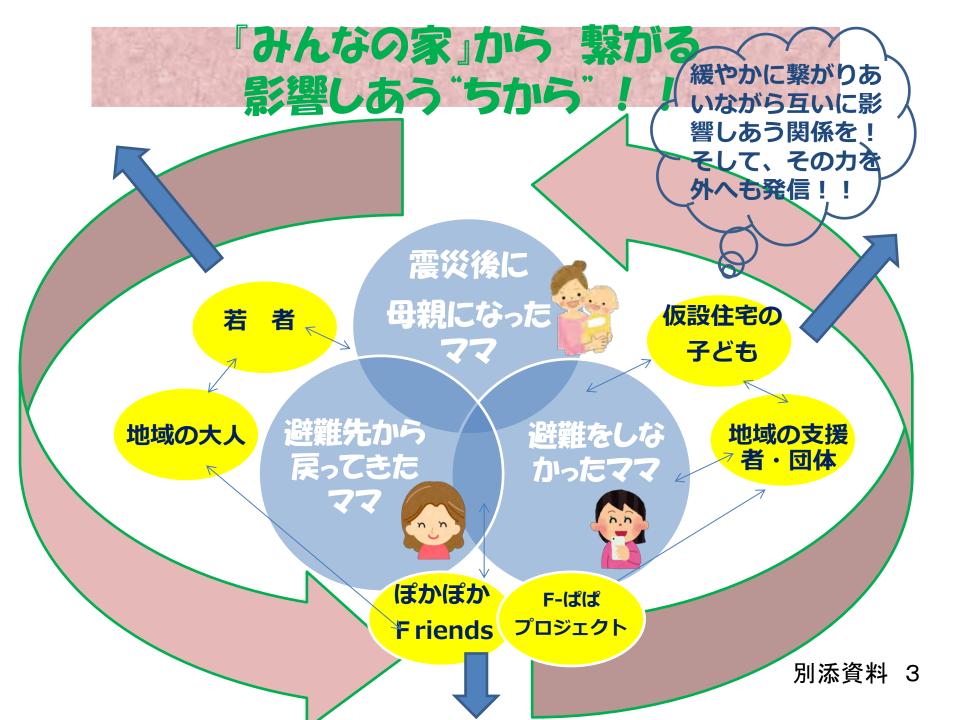
避難経験の有無に関わらず、震災後の福島での生活のひとつひとつに、悩みや不安を抱えていることが分かった。そして、それは親世代はもちろんだが、若者や大人も抱えている不安だという事が分かった。



だからこそ、"安心して話せる場"をつくること。それを、継続して行うことが大切だと感じた。

課題として感じている事

- ①福島で安心して自分の思いを話したり、他の人の思いを聴いたりする場をもっと作りたい。
- ②震災から4年8か月経ち、当時の子ども達も大きくなった。"子どもの気持ち"を、置いてけぼりにしていないか?ままカフェ、ぱぱカフェと続いて、こどもカフェも必要なのではないか。
- ③それぞれの世代がそれぞれの傷を負った東日本大震災。バラバラになったコミュニティをもう一度紡ぎなおすことが大切だと感じている。



みんなの家・・・それは、福島の母親・父親子ども達・若者・シニア層。 みんなの居場所であり、みんなの生きがいを感じられる場所。みんなが笑顔になれる場所。 みんながエンパワーメントされる場所。

ひとりひとりの想いを大切に出来る居場所みんなのための「みんなの家」です!!



子どもが安心して生まれ育つ福島へみんなで話そう!自分を褒めよう!互いに認め合おう!



そっと寄り添える<mark>応援者でありたいです!!</mark> 富田 愛